2022/11/7

視察報告書

豊岡市議会　つなぐ　前田敦司

【視察概要】

視察先：岐阜県高山市・飛騨市
日程：2022 年 10 月 4 日～6 日
工程：4 日 移動日（江原駅 10:49 出発～京都～名古屋～高山駅 17:13 到着）
5 日 AM 高山市市役所を訪問し行政取り組みをヒアリング、PM 現地視察
6 日 AM 飛騨市役所を訪問しし行政取り組みをヒアリング、PM 現地視察
その後移動（高山駅 14:20～名古屋～京都～江原駅 20:58 到着）

今回は「ひかり」「豊岡市議会公明党」「会派おおぞら」の議員と共に高山市・飛騨市の視察に伺った。主な視察目的としては、高山市では先進的なインバウンド観光の実情、飛騨市では森林を活用した官民連携した事業展開を目的とし視察を行った。印象深かった点を以下にまとめる。

【視察 1 日目　高山市行政視察　インバウンド観光取組】

高山市役所へ訪問　議長より歓迎のご挨拶を頂き、職員の方から取組み紹介を受ける
高山市議会　水門議長
飛騨高山プロモーション戦略部　高山市海外戦略課長　永田氏
飛騨高山プロモーション戦略部　観光課長　清水氏
議会事務局　書記　森本氏

≪頂いたお話よりキーワードを抜粋≫
高山市は　日本で一番広い市
人口約 84,000 人　2178 k ㎡(92%が森林)
産業の 7 割が観光関連
推計によると人口減少に伴い労働力人口も減少との事
来る 10 月 9 日・10 日には 3 年ぶりに秋の高山祭が開催される
（高山祭は H28 年ユネスコ無形文化遺産に登録されている）
インバウンド観光に力を入れているが、コロナ以後は岐阜県内の来訪者が急増している

<u>インバウンド観光推進</u>
＊それまでばらばらだった方向性をまとめ「海外戦略室」を立ち上げて推進した
　年間に外国人 61 万人(H31)が宿泊

※　豊岡市と比較すると約 10 倍　2019 年外国人宿泊人数 63,000 人
＊積極的なメディアプロモーションを行い、知名度を向上させると共に、パンフレットなどの多言語対応化を推進（web ページは１１言語に対応）
＊紙媒体で印象を伝え、詳細情報は QR コードから記載の HP へ誘導している

＊「ありのままの暮らし」を体験して頂くことを提案している
＊30 年以上にわたるインバウンド促進のための取組み
「行政と民間が一体となって本気で取り組む」
＊異文化理解・多文化共生に関する理解度が肝
＝手間がかかるインバウンドに「やりがいや喜び」を感じることが出来る人が増える事が成功するためのターニングポイント
＊飲食店の接客・対応が丁寧なお店が数件ある
待ち時間におしゃべりや折り鶴プレゼントなどのアドリブのオマケが好評で、結果、高評価につながり、さらに誘客が進むという良い連鎖に
＊寺が並びその裏に墓地が並んでいる（東山遊歩道）が外国人には人気
＊欧州では持続可能な観光のニーズが高まっている

町並み保存
歴史的文化資源　三町伝統的建造物群保存地区
地域の方の守りたいという想いを市に届け、市が条例化して保護・保全している

飛騨高山ウルトラマラソン
「観光の集客が難しい 6 月に誘客を」という思いで 2012 年に開始
100 ㎞の部、71 ㎞の部があり、初年度の参加者は 1000 名

ご当地グルメを盛り込んだエイドステーションが好評で、
現在では約 3500 名がエントリーされている

運営には多くのボランティア（約 1400 名）が協力されている
何年も続くとしんどいという声も出ているが、
ボランティアの方を巻き込み続ける為に、
「外部の評価をしっかりとフィードバック」することを心掛けているとの事

近隣他市との連携
＊山をまたいだ松本市と連携し、両市を繋ぐ横断ルートを Big Bridge 構想という観光地を磨き上げるプロジェクトも推進中

＊共通のメリットを見出し協働している

データを用いた戦略的まちづくり

＊経験則に加え、市内周遊時に利用できる無料 wifi をログインする際にアンケート収集データを分析し来訪者目線でのニーズの把握を行い、戦略的にまちづくりをおこなう
＊市民が住みたいと思える街・外部から訪れたい街を目指している
＊市内に Ai カメラを設置し、どのような年齢性別が来訪しているかデータ分析中

公式 HP

＊検索するとシンプルで印象の良い TOP ページが表示され、
そこから「行政情報」「飛騨高山観光」「tourist information」と求める情報にアクセスできるようデザインされている
＊仕組みとしては観光協会と連携し、都市部への宣伝なども含め外部へのプロモーションを観光協会へ委託している（1 億円規模）

インフラ整備

ショップ：インフォメーションオフィス・手ぶら観光カウンター設置・免税カウンター
観光ガイド：外国人観光ガイド３名（無料）　ボランティア通訳ガイド（無料）
民間支援：外国人観光客を受け入れるための自社パンフ・看板作成費用補助
動向チェック：来訪者にお土産プレゼントで直接ヒアリング
ネット環境：登録すると１週間利用可能な FREE-WiFi を整備

コロナ禍のアクション

＊来訪再開に向け情報発信を強化（SNS・YouTuber 誘致・ライブ配信をおこなった）
＊フォトコンテストも開催し好評
＊オンライン商談会・ウェビナーへの積極的参加
＊感染拡大防止設備投資への補助
＊外国人向けのワンストップ窓口の整備
（予期せぬケガ・病気などが発生した際に医療機関への紹介、相場の紹介、保険の紹介、通訳の紹介など）

スキー場との連携と課題

＊施設が古くなってきている　利用者減少　収支がマイナス
＊市営スキー場３つあるうちの１つは廃止予定
民間スキー場との役割分担が必要と考える（民間は３つ）

街中の様子

市役所での説明前後に徒歩及びレンタサイクルで散策しながら町並み視察を行った。
駅を降りて直ぐにインフォメーションセンター、バスターミナルが配置され、徒歩圏内に多くの神社・歴史ある町並み・飲食店が点在する。駅前ではビル型のホテルが多数建設され、白川郷をはじめとする日本一の面積の市の中心地(宿場町）としての活気を感じた。

【視察２日目　飛騨市行政視察　森林活用取組】

飛騨市役所へ訪問　副議長より歓迎のご挨拶を頂き、職員の方から取組み紹介を受ける
飛騨市議会　徳島副議長
飛騨市役所　農林部　林業推進課長　竹田氏
議会事務局　総務係長　倉坪氏

≪頂いたお話よりキーワードを抜粋≫
人口 22700 名４０％以上の高齢化率　面積 792k ㎡
市の９３％　約森林６８％が広葉樹
目を向けられてこなかった広葉樹小径木をデザイン化して高付加価値商品を作っている
広葉樹コンシュルジュという役回りの人員を置き、
「作りたい人・加工する人」をつないでいる
広葉樹森林まちづくり
若い音楽家を育成　宮川音楽コンクールを開催している　大学誘致で動いている
宇宙科学開発：スーパーカミオカンデ
配線を活用した「レールマウンテンバイク」というアクティビティが人気となり 6 万人が利用している
映画「君の名は」のモデル地域になった

森林の現状

日本の森林林業政策に「森林林業基本計画」というものがある。
ただし、日本の森林は広葉樹、針葉樹が５：５に対して、
政策としては針葉樹をなんとかしないといけないという計画がほとんどとなっている。
広葉樹は利活用が難しくその９３％は木製チップになっている
全国的にも家具の産地はあるが、そのほとんどは輸入材を加工し作られている。

広葉樹は、樹木が混合している天然林がゆえに安定しおらず、
仕分けが大変・家具にするには細いという課題がある。

ウッドショック（原材料の高騰）で輸入の広葉樹も３割高騰し、
それにつられて国産広葉樹も上がっている。

ただ、針葉樹も高くなっているので、いままで広葉樹を切っていた方も生産性の高い針葉樹に伐採に転換し、ますます広葉樹を切る方が少なくなってしまうという社会課題がある。

全国的にも製材所の減少し、広葉樹に対応できる製材所はさらに少ない。
その点、幸いにも飛騨市には対応できる製材所があったので、細い材を活用した家具も増えている。

広葉樹の高付加価値化
チップにして安価で外部に輸出するのではなく
小径広葉樹をデザインした家具に作り替え
加工して地域内で循環できる仕組みを作り高付加価値を生み出している

株式会社飛騨の森でクマは踊る（通称：ヒダクマ）
飛騨の森が 100 年先のために今できる事をという趣旨で 2015 年、第 3 セクターとして設立
（株主割合は右記：株式会社ロフトワーク 54%　飛騨市 32.5%　株式会社トビムシ 13.5%）
木製品の加工販売、カフェ・ホステル事業を行われ、近年は 1 億規模の事業となっている。

アイデアの共有・試作が出来、滞在もできるカフェ　Fab Café Hida
奥に加工試作できる場所もあり、宿泊できる仕組みも有する。
アイデア出し＋その場でやってみることが出来るのが画期的。
（木製家具クリエイターin レジデンス）
Fab カフェはフランチャイズではないが連携はしている。
小径広葉樹に価値を付けるために地域の方だけではなく外の方も連携している。

イベント開催
修学旅行や環境学習誘致も積極的に行う。
（レーザーカッターで彫刻しアイスのスプーンつくりなど）
木育　道具を自分で作る　木を選ぶときに木を知る
家具のハ材を使ってのスプーンづくりでは、
「木のチップで牛が寝る⇒その牛の牛乳から出来たのアイス」などの循環をプログラムを通じて知ってもらう。
（難しい事を言うとハードルが高くなるので敷居を低くするためのプログラム）

今回の視察は 2 日間で具体的な事例も含めてお話を伺い、今後、豊岡市においてどのようにして観光を推進していくべきなのか、森林をどう利活用できるのかを考える貴重な機会となった。また、どちらの取り組みを推進する上でも、市民や事業主の理解と協力が必要だと感じるが、視察の中で「関係人口を増やすことも大切だが、共にまちづくりを推進する協創人口を増やすことを意識している」という考えが特に印象に残り、参考にしていきたいと感じる視察となった。